

# 「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年12月

都道府県名	神奈川県		河川名	相模川		
事例タイトル	石倉カゴと間伐材漁礁によるウナギの棲み家づくり					
写真						
水系名/河川名	相模川水系/ 馬入川		場所	神奈川県平塚市		
位置情報 (緯度経度)	35.342530, 139.367521		活動開始年	2001年		
活動概要 (経緯・目的等)	<p>「馬入水辺の楽校」は川の自然と触れ合える場づくりを図ろうと、2001年4月に開校しました。国土交通省の進める水辺の楽校プロジェクトに平塚市が参画し、市民やNPO、行政との協働活動により、生まれました。それ以前は、大部分が駐車場で、不法投棄や不法耕作が行われ、市民が近寄れない場所でしたが、トンボ池やカエル池を設置するなど、自然環境を復元しました。18年経過し、豊かな自然環境が蘇りました。運営は当法人が実施しています。「子どもの時は子どもする」を合言葉に、子どもたちを対象に、ヤギ島探検ツアーや川の自然楽校など、年間60回余りの、環境学習活動を展開しています。「ウナギの棲む川づくり」や「トンボの棲むまちづくり」など、環境視点のまちづくり運動に取り組んでいます。組織基盤を強化しようと、2017年5月に、NPO法人化しました。ウナギの棲む川づくりは市民参加により、「ウナギの保護」と「生物多様性の保全」を運動展開しようと、始めました。</p>					
再生の手法		簡易水制 (巨石・ブツク)		バープ工 (上向き水制)	石倉かご・竹蛇籠	○ 植生ロール・ポット
	魚道改良	たまり・わんど造成	○	河床攪乱	その他 (記述)	河川敷の草刈り、外来植物の除去
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○ 河川管理者 (国)	○	河川管理者 (都道府県)	河川管理者 (市町村)	○ 河川管理者以外の地元自治体
	大学・研究機関		学校 (小中高)	企業	その他 (記述)	
工夫した点	<p>生物多様性の保全を図ろうと、子どもたちの参加により、柴漬けを設置してきましたが、流されてしまうことから、石倉カゴと間伐材漁礁 (県内水面試験場考案) を設置することにしました。①製造メーカー (株) フタバコーケン (静岡県) から設置関連の情報を取得すると共に、同社及び試験場の支援をお願いしました。②国土交通省に設置の相談。河川協力団体に認定されていることから、河川占用許可を取得した中で可能ではとの判断。河川の流れを阻害しない場所等の条件が提示され、河川占用許可を取得し、設置が認可された。初めてのケースと聞く。神奈川県魚連に設置の同意書を取得し、桂川・相模川流域協議会、神奈川県内水面試験場、北里大学海洋生命科学部の協力を得て、2018年3月に設置。5月に子どもたちや東海大学健康学部の学生の参加などにより、調査を実施。ウナギやカワアナゴなど、多数の生き物が棲み着いていることが確認できた。運動の輪を広げようと9月にシンポジウムを開催。120名余の参加者が集まる盛況の催しとなった。その後、流域協議会もウナギ調査を開始し、活動展開が広がりつつある。</p>					
今後の課題	<p>(1) 組織上の課題：①組織の若返りとNPO経営の確立。馬入水辺の楽校の長期運営を図るための仕組みづくり。②たくさんの方に参加してもらおうと、催しの拡充強化。③ワークショップ「ゆめの楽校づくり」の開講。若い人の参画を得るためには若い人の企画による運動展開が必要と考え、NPO法人フュージョン長池の力を借りる。 (2) ウナギの課題：石倉カゴの増設、間伐材魚礁装置に改善、継続的な調査活動、イベント開催など運動輪の拡大</p>					
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>ウナギの棲む川づくり運動の持つ意味 (1) 絶危惧種ウナギの保護活動の展開。(2) 調査活動により、相模川のウナギの生息状況が明らかになり、具体的な保護施策の実行に結びつく。(3) 河口部から上流部、川の左右の環境の保全活動につながる。(4) ゴミ問題、水質汚染など、暮らしのあり方を見直しにつながる。(5) 市民やNPO、行政との連携によるいい川づくりが促進される。絶滅危惧種、ウナギの力を借りて、人と川との距離を縮める。</p>					
関連URL等	<a href="https://shonanikimonogakkou.wordpress.com">https://shonanikimonogakkou.wordpress.com</a>					